

e-ビーフNEWS 北の牧場から

March 2022

十勝の雪解け

一気に気温が上昇。-10℃にはいなくなり日中もプラスの日が続きます。朝からの温度差が10℃以上になりポカポカ陽気に。牧場作業していても汗をかくようになりました。防寒のオーバーホールを半身にして作業、でも終盤の一安堵では、寒さがジワリ、そそくさと着直します。e-びーふの混合飼料は水分多く今までは、ガンガンに岩みたく凍っていたのが、やっと緩んでサクサクと取れ始めました。牛たちの霜だらけの顔もやっと解除され、パドックでジーと日たなぼっこしています。

街中では山と積みあがった雪山も解けて水浸し、いくら洗車しても追いつかない。町中の車は、跳ね上がった泥で真っ白くお化粧しています。このまま春に進んでほしいのですが、例年のドカ雪がいつくるのかビクビクものです。それを越せば待ちに待った春が訪れます・・・と思います。



活動のお知らせ

- 2月25日 道総研畜産試験場にて事務局会議(理事会)をおこないました
 1)第23回総会&飼養技術研修会 6月11日(土) 道総研畜産試験場
 講演予定:日本獣医生命科学大学 柴田氏、道総研畜産試験場 糟谷氏
 2)第19回資源循環型肉牛生産シンポジウム2022 11月10日(木) とかちプラザ
 テーマ「畜産のカーボンオフセットなど調整中」
 3)e-びーふ認定委員会ほか
- 3月26日(土) 日本産肉研究会第29回学術集会 13:00-17:30 テーマ「持続可能な畜産とは何か?」
 《プログラム》
 13:05-13:45 室谷 進 氏 (食総研)「持続可能な畜産に関する研究視点について」
 13:45-14:15 Mr. Tim Jones & 森塚 千絵 氏 (グラットニー牧場)「海外から・・・」
 14:15-14:45 菊池 貴子 氏 (株式会社スターゼン品質管理部)「スターゼンの目指す・・・」
 15:00-15:40 瀬尾 哲也 氏 (国立大学法人帯広畜産大学)「アニマルウエルフェア・・・」
 15:40-15:55 日本産肉研究会「日本産肉研究会が提案する持続可能な牛肉評価基準・・・」
 15:55-16:55 総合討論 日本産肉研究会 総会

NEWSばか読み

- 貿易統計21年畜産物の輸入減少続く 輸入牛肉減
2/1:コロナ禍で外食影響
- 関東生乳販連 22年度乳価全用途で据え置き
2/1:酪農家一安心とも言えず
- セブン そごう西武売却 百貨店業界淘汰予兆
2/2:時代の流れでどう生きるか
- 農水環境省 県GAPを国際水準に引き上げ検討2/3:輸出と普及対策
- バイオ炭をJ-クレジット制度で認証申請
2/3:J-クレジット制度勉強しないと
- ベトナム乳製品大手 双日と提携し乳♂の日本品質牛肉生産開始
2/4:始まりました
- みどり新法で有機団地化推進 全農家で協定し行政が認定
2/4:総合的に進むね
- 21年輸出農畜産物3500億円2割増 牛肉イチゴ過去最高
2/5:海外家庭内需要
- FAO国際食品価格が最高水準 牛肉、穀物、食物油上昇
2/5:自給率上げないと
- 全農肉牛共励会で交雑部門 土幌緑陽牧場が最高位
2/5:交雑品質向上進む
- ドローン活用で農業支援サービスの多様化進む2/7:放牧管理利用検討
- カネカ 海で溶けるプラを開発 増産へ2/7:溶けたものは
- 総務省 21年家計踏査 コメ、牛乳の支出大幅減 調理品伸びる
2/9:顕著に反映
- 21年鶏肉輸入 過去最高107万t7%増 牛肉高騰で代替2/10:コストか
- 国際商品1年で5割高 2000年代で最大の上げ幅2/10:輸出入が壊れる
- コメの消費傾向 パックご飯4%増 簡便シフト鮮明2/11:簡易が潮流か
- 農水環境省 22年産コメ作付けから飼料米以外を促進傾向
2/12:多様化か
- レタス・キャベツなどの結球野菜が3割高 2月上旬の低温干ばつで
2/15:お天道様
- クボタ決算過去最高 アジアの需要が好調2/15:アジア経済が堅調
- JAオホーツク環境大善と牛尿で特殊肥料化し海外輸出へ
2/15:堆肥の輸出
- 21年家計調査 コロナ下自炊ブームが一服 調理品増加傾向
2/18:簡便化
- 総務省 過疎地域が65増885ヶ所に2/19:都会以外が過疎になっちゃう
- 日本オーガニック会議 みどり戦略踏まえ環境循環型を提言
2/19:循環基本

東京直近NEWS (2/28 Shi-REPORT)

ホルス

ホルス相場はやや下げ基調での推移。
 コロナ感染拡大から「まん防」も延長されている状況で、人流も制限されており販売状況は非常に鈍い。特に上位部位の鈍化が著しく、カタローもシーズンオフに近づきスライス需要が停滞。バラ系や赤身は切落し原料として一定維持も、慢性的な頭数不足から不足感がある環境。
 3月以降の動向も非常に読みづらく、一部でまん防解除もコロナ感染続いており、先行きは不透明で不安感強い。

経産牛

経産牛相場は下落基調でガリ枝は安値、脂物は横ばい状況。
 パーツ販売状況は一定数の維持はしているものの、加工向けの冷凍原料低迷しており焼肉外食向けも一服感が強い。
 3月に入り、一部で赤身の引合問合せ増加してきているが期変わりなのか実需なのか不透明。ミンチ材の荷動きは鈍い状況続いており、枝相場下落から下げ価格で拡販のメーカーも。
 決算控えており、価格競争の場面も出てくる可能性大。

